

1 題材名 作者の思い～ピカソが生涯を通して伝えたかったこと～

2 題材について

(1) 題材観

美術の起源はラスコーの壁画にみられるような原始美術に始まり、以来、時代の変化とともにその担う役割を広げながら、連綿と創作活動が続けられてきた。これまでに、歴史に名を刻む数多くの作家が現れ、素晴らしい作品が世に出されてきた。その数々の作品は、歴史的背景から必然的に生まれたものから、作者が自身の思いを込めて生み出したものまで様々である。そのような様々な作品に触れて深く味わうことは、幅広い考え方やものの見方を身に付けることにつながり、これから社会へ出て行く子どもたちにとって、非常に大切な活動ではないかと考える。

本題材では、ピカソの自画像の鑑賞を通し、学習指導要領〔第1学年〕の(2内容)「B鑑賞(1)ア(ア)造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること」を目標とする。

ピカソは創作活動に対して非常にエネルギッシュな作者であり、数多くの作品を残した。作品は絵画・陶板画・立体など多岐にわたっている。絵画で扱うテーマについては、私生活にかかわるものから戦争の悲惨さを描いたものまで様々であるが、自画像も数多く残している。若いころの自画像や人物画は写実に基づいたものであったが、だんだんとキュビズムを意識した作品になり、さらに晩年になると、形は大胆にデフォルメされ、走るような筆致で彩色されるようになる。本題材では、ピカソの晩年の自画像から順に、だんだんと制作年の若い自画像を紹介していく。徐々に時代を遡り、若い頃に描いた写実的な作品に辿り着くと、新鮮な感動とともに一つの疑問が湧く。ピカソはなぜ、これほどまでに上手に描けたにもかかわらず、敢えて形を壊し、炸裂するような色で描いたのか、という疑問である。ピカソの残した言葉に、「子どもはみんな芸術家だ。問題なのは、それをいつまでも忘れずにいられるかどうかだ。」というものがある。ピカソが生涯を通して追い求めたものは、本物と見まごうほどのリアルな絵ではなかった。純真無垢な子どもが何の計算もなく描く、純粋な創作欲求から生まれる「こどもの絵」であったのだ。晩年のピカソが「ようやく幼稚園児と同じように描けるようになった。」と満足げに語ったことが、ピカソが追い求めたものを如実に物語っていると言えるだろう。本題材でピカソの作品に込められた表現の意図をについて考えることにより、生徒のものの見方や感じ方を広げさせたいと考える。また、様々な自画像に触れることは、〔共通事項〕「イ造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。」につながると考える。

(3) 指導観

生徒の実態より、鑑賞に対して難しさを感じる生徒への手だてとして、話し合い活動を取り入れながら鑑賞を行うことが有効であると考えられる。また、他の生徒の考えを取り入れることにより、一人で作品に対峙するよりもより深く作品を味わい、作者の真意に迫れると考えられる。

3 題材の目標

- ・作品の雰囲気や描かれ方について、意欲的に考えようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・他の生徒との話し合いを通し、作者の心情や意図を感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)

4 指導計画 (1時間扱い)

時 配	主 な 学 習 内 容	評 価 規 準 (方 法)
1	・ピカソの自画像を鑑賞し、ピカソの心情や意図について考える。	・作品の雰囲気や描かれ方について、意欲的に考えることができる。 関心・意欲・態度 (観察) ・他の生徒との話し合いを通し、作者の心情や意図を感じ取ることができる。 鑑賞の能力 (観察・ワークシート)

5 本時の指導

(1) 目標

- ・作品の雰囲気や描かれ方について、意欲的に考えようとする。(関心・意欲・態度)
- ・他の生徒との話し合いを通し、作者の心情や意図を感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資 料
1	1 本時の学習内容・めあてを確認する。	・本時の題材・学習内容を説明し、学習のめあてを持たせる。	
4	2 ピカソの晩年の自画像を鑑賞し、作品からどのようなことを感じたか、発表する。	・パソコンの画像をテレビで映し出し、鑑賞させる。何もヒントを与えず、自由な発想で考えさせ、発表させる。 ※作品の雰囲気などを感じ取ることが難しい生徒には、形や色が持つイメージに注目させて発想を促す。	パソコン TV
2	3 作品が誰によるものか、推察する。 「ゴッホ」「ピカソ」 「レオナルド・ダ・ヴィンチ」	○作品の雰囲気や描かれ方について、意欲的に考えようとする。(関心・意欲・態度)【観察】 ・知っている作者名を挙げさせながら、テレビに映し出した作品が誰によって描かれたものであるか考えさせる。	
3	4 ピカソが数多くの作品を残したことについて、知る。	・ピカソが創作意欲に掻き立てられ、数多くの作品を制作したことについて紹介する。	
7	5 晩年以前の自画像を鑑賞する。	・作品の制作年が少しずつ若いものになっていくように、作品を紹介する。(補足として、少年期に母親を描いたパステルの作品も紹介する。) ○作品の雰囲気や描かれ方について、意欲的に考えようとする。(関心・意欲・態度)【観察】	パソコン TV
	ピカソは生涯を通して、どのように絵を描くことを目指したのだろうか		
1 2	6 小グループになり、ピカソが生涯を通してどのように絵を描くことを目指したのか、話	・ピカソの作風が変化することに触れ、ピカソの意図について考えさせる。グループで意見を交換させることにより、鑑賞を深められるようにする。	ワークシート

	し合う。	○他の生徒との話し合いを通し、作者の心情や意図を感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)【観察・ワークシート】	
10	7 グループごとに発表する。	・ワークシートの感想欄に、自分の考えと本時の取り組み方の反省をさせる。 ・グループごとに発表者を決めさせ、考えたことを発表させる。自分のグループで出た以外の意見について、メモを取らせる。	ワークシート
3	8 ピカソの意図について、話を聞く。	・ピカソの言葉を紹介し、ピカソが生涯を通して子どものように絵を描きたかったことを紹介する。	
6	9 本時のまとめとして、授業を通して考えたこと・感じたことなどを書く。	・本時の授業を通して何を学んだか、具体的に書かせてまとめをする。	ワークシート
2	10 ワークシートを提出する。	・ワークシートを提出させ、次時の連絡をする。	